

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 18 日作成)

小委員会名	建築情報教育小委員会	主 査 名：大西康伸 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：倉田成人
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築の様々な分野で新しい情報システム技術の開発やその利用が進められている。その中でも BIM や Digital Fabrication については開発・利用の進展が早く、常に新しい取組みが行われている。本小委員会では、「情報システム技術を活用した創造的な建築設計プロセスやそのマネジメント技術」を教育の中で生かすための方法を検討・提案することを目的とした前身の「建築情報教育小委員会（2015 年度～2016 年度）」での活動を継続・発展させる。具体的には、大学内外での建築情報教育の先進事例調査やゼネコン・設計事務所等の実務分野の建築情報教育の先進事例調査を行い、その成果を公表するとともにあるべき姿について議論する。また、大学や高等専門学校における建築情報教育の現状についてアンケートにより調査し、現状把握を行う。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の建築情報教育の先進事例調査 ・ 大学以外での建築情報教育の先進事例調査 ・ 研究会の開催 ・ 建築情報教育現状調査アンケートの実施 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の建築情報教育の先進事例調査 ・ 大学以外での建築情報教育の先進事例調査 ・ 建築情報教育現状調査アンケート結果のまとめ ・ 研究活動成果のとりまとめ 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：大西 康伸 (熊本大学大学院先端科学研究部 准教授) 幹事：村上 祐治 (東海大学基盤工学部 教授) 下川 雄一 (金沢工業大学環境・建築学部 教授) 委員：加戸 啓太 (千葉大学大学院 助教) 木村 謙 (エーアンドエー株式会社研究開発室 室長) 倉田 成人 (筑波技術大学産業技術学部 教授) 澤田 英行 (芝浦工業大学システム理部環境科 教授) 竹中 司 (アンズスタジオ、豊橋技術科学大学 研究員) 中木 亨 (宮城大学学務課 主事) 中澤 公伯 (日本大学生産工学部 准教授) 中田 千彦 (宮城大学事業構想学部 准教授) 前 稔文 (大分工業高等専門学校都市システム工学科 准教授) 松本 裕司 (京都工芸繊維大学デザイン経営工学部門 助教)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2017 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)

刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会：建築学びのイノベーション ― 情報がつなぐ教育の未来 『情報システム技術部門研究協議会資料：同上』 参加者数 94 名
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>4ヶ月に一度、建築情報教育に関する先端事例を小委員会内外の講師が紹介するレクチャーを実施した。小委員会内で実施したため公には公開していないが、情報システム技術委員会委員は、事前に連絡がある場合には聴講可能とした。</p> <p>また、小委員会に参加できなかった委員のために、レクチャーを録画し発表資料と合わせて小委員会限定でウェブ配信を行っている。</p> <p>以下がこれまでに実施したレクチャーである。</p> <p>第一回 (2017/6/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴木 琢也氏 (竹中工務店)「スマートデバイスの特徴を活かした構造教育用アプリケーション」 前 稔文氏 (大分高専)「大分高専 (土木系学科)におけるデザイン教育の芽生え」 <p>第二回 (2017/12/4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 志手 一哉氏 (芝浦工業大学)「建築生産教育における BIM の取り組み」 <p>第三回 (2017/3/14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築情報教育小委員会委員全員「最新の建築情報教育に関する取り組み (仮)」 <p>レクチャー及びその後の討論の結果、建築情報教育がどうあるべきかに対して示唆に富む成果を生んでいるという手応えを感じている。なお、上記の連続レクチャーは、活動計画の「大学の建築情報教育の先進事例調査」、「ゼネコン・設計事務所の新人教育における建築情報教育の先進事例調査」に対応する。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 毎回ちょっとした講演会となっている。情報システム技術委員会委員であれば参加できるとしながらも、積極的に情報発信しておらず参加者はほとんどいない。どうにかして外部の方々にも参加いただきたいと考えている。</p> <p>2. 活動成果を小委員会内だけでなく、どのように外部と共有するか。報告書形式では伝わる内容が限定的であるため、毎回のレクチャーを凝縮したようなシンポジウム/セミナー等が必要ではないかと考えている。今年度は大会で研究集会を開催したが、十分ではないと予定している。</p>
その他	なし